平成２８年１０月６日

北海道農業者サロン
会員各位

北海道農業者サロン
理事長　喜多 俊晴

はじめに

このところ小さな旅が続きました。「榎本釜次郎の五稜郭」「高田屋嘉兵衛の函館」「蠣崎波響の松前」「徳川義親の八雲」「リヒャルト・ガルトネルの七飯」と大学時代の同期会。函館山の夜景は駐車場が増えて寂しくなり、寿司は「函太郎」へ、鰊蕎麦は松前、上ノ国の夷王山勝山館跡や瀬棚の太田神社に圧倒され、八雲神社で「古希の御祓い」で締めました。

斜里町では「朱円環状土籬跡」、陸別町の「ユクエピラ装飾チャシ跡」、伊達市「北黄金貝塚跡」など楽しい旅で、斜里オクシベツ川遺跡の環状列石が斜里知床博物館前に移設復元されていたこと、伊達市では噴火湾文化研究所が多彩な活動を展開していること、「小樽 忍路」や「深川 音江」の環状列石は数度訪れていますが、他に「知内　湯の里」「ニセコ 曽我北栄」「戸井 浜町」「余市 西崎山・八幡山」「旭川 神居古潭」など周堤墓と配石遺構の分布は道内 24（1999 年）もあることも驚きでした。

―「鳥」の無数の羽が重なり合うことでできる胸のふくらみや量感、透き通った色合いは意図してそのような形になったのではなく、成長していくうちに自然にその姿になっていく、その生きていた痕跡が美となっているように感じます。

―「頭蓋骨」もかつては私と同じように生きていた人間であったということ。そして私もいつかこの頭蓋骨と同じように死ぬということ。

―その事実を改めて実感した時に「なぜ私は生きているのだろう」「何のために生きているのだろう」「なぜ絵を描くのか」など様々な疑問が湧いて出で、その度に考えさせられました。

―それでも「死」と目をそらさず向き合うことで、今の「生」を輝かせることができるように思います。―「死」を思うことで生きていることを考えさせる。―「生」と「死」を真摯に実直に見つめ問いかけることを続け、「そこに存在している」という当たり前だけど大きな感動が誰かに伝わることを信じて絵を描き続けたいと思います。

噴火湾文化研究所発行「噴火湾文化 VOL9」研究ノート［絵画／私にとっての噴火湾文化研究所同人展 ― 松永 瑠利子］から。文章と「鳥」「頭蓋骨」の掲載写真を見てとても感動し、このニュースレターのバックナンバーの入手を願い研究所に伺いました。受付で数冊受け取り「この絵はどこで見れるのか」と聞くと「ここで。描いたのは私です」とっても素敵なお嬢さんでまったくあずってしまいました。

美唄 内山裕二君より研修講演会案内の原稿が届きました。
久方振りの一泊研修でとても楽しみです。
皆様、万事お繰り合わせの上、是非ご参加ください。

北海道農業者サロン秋期研修講演会案内

台風被害の対応に明け暮れる毎日。今年の北海道農業もそろそろ農作業が終わろうとしています。会員各位も変動の多い天候に苦労したと思います。

前回の夏期講習会では「石灰を学ぶ」と題して、前半は土壌学の観点から土壌の中での石灰の働きについて帯広畜産大 谷 昌幸氏に話していただき、後半は吉野石膏㈱セラミック営業部 臼井 潤氏から硫酸カルシウム資材の製造や効用などについて話していただきました。

硫酸カルシウム資材についてはリサイクルにまで発展しました。廃棄物処理についてのメーカーの考えも情報を公開してより明確な説明が必要です。農家のために、土のために、作物のために、という視点こそが大事なはずなのに、企業の論理や廃棄物処理に関連した補助金など裏事情もあって、真実が見えない状況にはもどかしい限りです。

今回は、前回の予告どおり、美唄での「石灰を学ぶ」パート２です。

講師には、まずは、石灰を考えるきっかけになった美唄のチョーク工場の責任者、日本理化学工業㈱工場長 西川 一仁氏に、石灰とチョークを中心に、福祉と経営、原料と製品など、幅広く話していただきます。

二人目は、美唄市農業協同組合 米麦課長 新谷 光昭和氏です。美唄農業にこの人ありと業界内の有名人です。美唄は知る人ぞ知る飼料米生産の先進地であり、地元の農家すら知らない「耕畜連携」の裏舞台、いち早い「飼料米の品種改良」や「取引先の確保」など余すところなく語っていただきます。

三人目は、かつて「ふしぎ農業を語る」としてご講演いただいた㈲イズミ農園 代表 梅津 鐵市氏です。今回はカルシウム、カリ、植物のマグネシウム、ヒトの鉄、魚の銅などミネラルと動植物の関係を中心に麦飯石や珪藻土などにも言及していただきます。

５時間の長丁場、石灰をきっかけにさまざまな論点を与えてくれる講習会になると思います。

ひとつの物質、ひとつの作用、成果物だけをみても、農業は何ひとつ語れません。「総合的・多角的視野とはこういうことを言うのだ」という声が田中顧問と接しているといつも言われている気がします。戦い、伝え、繋げる顧問の行動は、我々農業者が自分の地域や家族だけを食わせるためだけに奮闘してきたことをもう一度見直すことを語りかけているような気がします。

しかし科学で説明できないことも大事にと言われても、なにを基にして営農を続けるのか解らないのですよね。

初めての美唄での開催、一緒に美唄のことを考えてもらえばと思います。

「なぜ焼き鳥ととりめしが名物なのに養鶏が行われないのか」「なぜ酪農家が少ないのに耕畜連携に取り組んでいるのか」「農地面積が限られるのになぜ農協は大規模政策ばかり追うのか」「なぜ若い人が園芸品目を作らないのか」「観光と農業が上手くリンクしない原因は何か」「なぜ隣町に住む市職員に住宅手当が出ているのか」「なぜ地元で取れた農作物が地元の小売店に並ばないのか」「炭鉱遺産、宮島沼、アルテピアッツァ美唄、アスパラ、ハスカップ、農村風景などなどの資産を持ちながら住みにくい街ランキングで上位に入るのはなぜか」美唄って、不思議な街です。

「なぜ小泉進二郎が農協改革など言い始めたのか」「TPP なんて始まりっこないのに反対運動をする民進党は何なのか」「自然災害被災農家だけが救済するべき農家なのか」「大規模農家って本当に救った方がいいのか」「それでいいのだと割り切る根拠はどこにあるのか」など不思議なことも合せて論議したいですね。

最近は淡泊な講習会が多く、懇親会で怒号が交わされたりすることも減り、さびしい限りです。
災害も多く不穏な一年だったので、最後くらいは大いに飲んで語れる場にしたいと思います。

文責　内山 裕史

おわりに

過日、「偶然の出会い」と「必然の別れ」に涙しました。NHKBS「各探偵ポワロ」の再放送です。アガサ・クリスティ原作でエルキュール・ポワロを主人公にしたドラマ。「二重の手がかり（The Dauble Clue）」の表題でポワロが最も愛した宝石泥棒ベラ・ロサコフ伯爵夫人との素敵な恋です。原作のイメージ通りのいい役者たちで「同じ国で仕事はしないようにしましょう」とポワロは語ります。ポワロ連作のうち犯人を逃がす心に残る小品です。小生も頑張らなくてはと思います。

「乗り越えるのは無理、痛みは常に存在するの。難しいのはそれを消そうとしないこと、抗つては駄目なの。私達は過去を無理に変えようとしたり忘れようとする。でも痛みは私達の一部よ。クオークの発見みたいなもの。あれは物理の常識を覆す大発見で怒りや抵抗もあったわ、でも正しかった。そしてついにそれが受け入れられた時に生命についての理解が深まったのよ。もし否定していたら進歩は無かったわ。簡単ではないわ、でもだからこそ価値があるの」これは BS-Dlife「BONES ー骨は語る」でのテンペランス・ブレナンの言葉です。

この秋は「そらち炭鉱グルメ」の旅を企画しています。「美唄／たつみのやきとり」「歌志内／チロルの湯のなんこ」「赤平／八千代寿司のがんがん鍋」「芦別／宝来軒のガタタン」「三笠／幾春別更科食堂の蕎麦」「夕張／藤の家のカレー蕎麦」、芦別は「野花南環状土籬と熊ノ沢遺跡」を加えたいと思います。美唄は炭鉱関連施が６箇所、現在人口は２万３千人、最盛期は９万人を数えた「炭鉱の街」で、夕張山系内炭鉱の「入口は栗山の酒屋、出口は美唄の質屋」と揶揄して語られますが「街も生きている」証です。三笠は近年、石炭ザンギとか、夕張の藤の家は閉店とのことなので近くの「のんきやのラーメン」としたいと思います。

早朝、原稿を纏めながら加藤 泰／鶴田 浩二の「明治侠客伝 三代目襲名」を見ています。
菊地 浅次郎は唄います。―「どうせやるなら ど根性決めろ かけた命の盃に 義理という字が 義理という字がなぜ重い。泣いてすがった情の袖を 切るが渡世の掟なら どうせ地獄の どうせ地獄のこの命。一度死んだら二度とは死なぬ 泣いてくれるな夜の雨 意地を通すぜ 意地を通すぜ三代目」―任侠映画の傑作でその映像美に圧倒されます。
農業者の「地を這う者」としての意地や義理を美唄での研修講演会で是非論じ合いたいと考えます。
演題・日程の詳細を下記のとおり、ご案内させていただきます。
先日、事前案内でご通知させていただきが、参加申込ご連絡期日を過ぎております。
宿泊先の手配等がございますので、未だご連絡をいただいていない会員様におかれましては、
恐れ入りますが、**大至急、参加申込書をお送りください**ますようお願いいたします。

全体文構成責　田中正夫

記

日時　平成 28 年 11 月 21 日（月）
12:00～　受付開始

場所　ゆ～りん館
美唄市東明町３区
TEL:0126-64-3800

挨拶　12:45～
北海道農業者サロン　理事
喜多　俊敏

講演

13:00～
「チョークに想いを!」
日本理化学工業㈱　美唄工場長
西川　一仁氏

14:30～
「美唄の米を語る」
美唄市農業協同組合　米麦課長
新谷　光昭氏

15:30～
「ふしぎ農業を語る」
(有)イズミ農園　代表取締役
梅津　鐵市氏

17:00～
「貝化石及び珪藻土から学ぶこと」
㈱ナラ工業　代表取締役
奈良　幸則氏

18:00～
懇親会・忘年会

11 月 22 日（火）午前中
美唄名所案内・座談会

研修講演会会費　2,000 円

宿泊費　11,000 円
※懇親会・入浴・朝食代金を含みます
※４人１部屋の料金です。1～３名での利用も可能ですが高くなります

以上

秋期研修講演会参加申込書

（該当する□へ✔をお願いします。）

■参加する

□研修講演会のみ参加する（2,000 円）

□研修講演会・懇親会に参加し、宿泊する（13,000 円～）

※懇親会のみの参加はできません。悪しからずご了承ください。

参加会員名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

同行参加者名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

□参加しない

会員名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【10 月５日（水）までに参加の有無を必ずご連絡ください。】

【お問合せ先】
北海道農業者サロン事務局／㈱イーストウエスト東京事務所
〒102-0075 東京都千代田区三番町 7-5-105
Tel:03-3288-1888　　Fax：03-3288-2555
e-mail：salon@eastwest-tokyo.co.jp

ＦＡＸ送信先：03-3288-2555
坂井あて